

外郭団体の運営について

かじ幸夫 人材確保の観点で伺います。市の施策や行政課題を補完する外郭団体において、労働条件などの処遇が原因で人材が離れていく、もしくは人材が集まらないというようなことはあってはなりません。市として各団体の役割や目的、経営状況や時代適合性、民間への代替性などチェックをしつつ、外郭団体の経営資源や運営体制の最適化を図りながら人材確保に向けた支援を進めるべきと考えますが見解を伺います。

副市長 急速な少子・高齢化が進む現在の社会情勢において、人材確保は外郭団体の持続性を確保するために重要な課題であると認識しています。団体に働く職員の処遇や労働環境の整備・改善については、安定した経営基盤確立することが必要だと考えています。各団体において、収入の確保を図るとも

に、時代適合性や民間代替性などの観点から、絶えず事業の必要性や内容等を見極め、徹底した経営改善に努めていただく必要があると考えています。外郭団体が今後も市政の補完的な役割を果たしていけるよう、市として必要な支援を行ってまいります。

かじ幸夫 外郭団体の中には、事業の設立目的から自由な収益事業が行えずに、その収益の大部分を市からの委託費、補助金に依存しているケースがあります。よって、適切な積算がなされなければ、固有社員の処遇改善を図ることは困難です。優秀な人材を確保する観点で、委託費、補助金の適切な算定がされるよう十分配慮頂きたいと思えます。

決算特別委員会 各局審査（かじ幸夫担当分）

9月16日

水道局

1. 水道技術職の人材育成について
2. 水道料金支払いの口座振替への誘導について
3. 財務会計システムの更構築に伴う働き方改革について
4. 簡易水道組合の統合促進について

以下、
質疑議事録〔抜粋〕

質疑模様
動画配信



水道技術職の人材育成について

かじ幸夫 水道技術職は「水栓計画の立案」や「工事設計業務」など、行政判断に必要な業務に従事しており、行政職員である土木職や設備職等と同等の業務を担っています。水道技術職の導入後、具体的にどのような業務に携わっているのか、また水道技術職に対して、スキルアップやモチベーションアップの観点でどのようなサポート体制を組まれているのか見解を伺います。



水道局審査 (9/16)

水道局長 令和2年度にこの仕組みを整え、技術力の維持蓄積を図りながら将来にわたって安定的な水道事業を行う趣旨で構築しています。転任した水道技術職については、個々の職員が能力や経験を鑑みながら、より幅広い業務に従事できるように異動や研修を実施しています。業務内容では、工事積算設計監督や水栓作業計画の立案、設備の維持管理、故障対応など、これまで行政職が担ってきた新たな業務にも対応しています。サポート体制について、水道技術職が円滑に業務を遂行できるよう、必要な専門知識を習得する研修や工事積算設計監督業務に係る研修に取り組んでいます。引き続き、水道業務に不可欠な技術技能の継承に取り組むとともに、業務の効率化と安定的な運営の実現に努めてまいります。

簡易水道組合の統合促進について

かじ幸夫 神戸市では、昭和30年頃から市水道施設の整備が行われていない地域で、簡易水道組合が設立され、地域の井戸等から水供給がなされてきました。昭和40年代後半には100か所を超える簡易水道組合がありましたが、協議を経て多くが統合されました。現在では西区において6つの簡易水道組合が残されているのみです。これまで水道局では、各組合と定期的に意見交換を行い、組合及び地元住民の思いも尊重しながら、統合に向けて調整を図ってきていると伺っています。地域の安全・安心な水供給のために、神戸市水道への統合が一番であると考えており、早期に統合が進むよう積極的に取り組んでもらいたいと考えますがいかがでしょうか。

水道局長 各簡易水道組合では、水道施設の老朽化、水源の枯渇や水質面、そういった将来に向けての不安を抱えているというのが現状です。これを解消するためには神戸

市水道と統合することが最善ではあるとは思いますが、統合するにあたり、新たな配水管、給水管の整備が必要であり、その費用負担が必要です。統合を進めるにあたり、整備費用の軽減の観点で、国の補助制度の活用のほか、新たに国に支援策の要望も行っていきたいと考えています。今後とも、地域の事情にも応じてきめ細やかにご相談も承りながらサポートをしていきたいと考えています。

かじ幸夫 先般、取水する井戸の定期水質検査において「PFAS」数値が基準値を上まわったとのことで、現在、簡易水道組合として地元住民の皆さんとも情報を共有したうえで、関係機関と連携し「フィルター」の設置など対策を急ピッチで進められています。第一義的には、簡易水道組合が対策を進めていくことが原則であることは承知していますが、水道局としても地域に寄り添ってこの問題に対応していただきたいと思えます。

9月18日
建設局

1. KOBE公園プロジェクトについて
2. 職員技術研修所について
3. 神戸登山プロジェクトについて
4. 内水氾濫対策について
5. 駅周辺のリノベーション

質疑模様
動画配信



以下、
質疑議事録〔抜粋〕

神戸登山プロジェクトについて

かじ幸夫 コロナ禍以降、ライフスタイルの変化やSDGsの考え方が広まり「自然に回帰した余暇の過ごし方」が注目され登山を楽しむ方が増えています。それを踏まえ「神戸登山プロジェクト」として、現在取り組んでいる内容について伺います。

建設局長 登山道の維持補修、案内看板など道標の整備を行い、ハイカーの利便性、安全性の向上に取り組んでいるところです。令和6年度には、六甲全山縦走路の整備並びに太陽と緑の道の再編を行いました。さらには、登山の支援拠点やマウンテンバイクコースの整備など、登山道以外の取り組みも行っているところです。

かじ幸夫 六甲山の活性化に向けた新たなレジャーコンテンツとして、マウンテンバイクに着目し取り組みを進めています。この目的やその背景について伺います。

建設局長 令和6年度に森林植物園の学習の森エリアに初級コースの整備を行い、今年5月に供用開始をしました。11月頃からは駐車場を開設し、加えてレンタルバイクのサービス開始も予定しています。今後、中級・上級コースの整備も進めながら施設や運営の充実も図っていきたく考えています。



内水氾濫対策について

かじ幸夫 「雨水浸水対策基本方針」に基づき、優先度の高い地区から対策が進められています。令和6年度も東灘区や中央区においてポンプ場の新設・改築が行われました。今後も順次進んでいくと伺っていますが、現在、西区玉津町西河原地区の浸水対策の進捗状況について伺います。



建設局審査 (9/18)

下水道部長 西区玉津町西河原地区については、今年度中に地区別浸水対策基本計画を策定予定です。この地区については、20年以上前から内水排除のための雨水幹線の整備など、重点的に浸水対策に取り組んできたところです。この整備効果は着実に発揮されていると認識しています。しかしながら、現在でも局所的に浸水の危険性が残っている箇所もあり、策定予定の基本計画も踏まえ、引き続き浸水対策を継続してまいります。

減り続ける 路線バスの現状

路線バス事業は、運転士の働き方改革による人材不足や経営難などから、運行本数の減少や路線廃止が全国的に相次いでいます。神戸市内では、神戸市バスや民間バス事業者により運営されていますが課題は同様となっています。一例をあげると・・・

① バス運転士の不足
長時間勤務・低賃金など労働環境の厳しさからバス運転士志望者が減少。特に若い世代の志望者がいない。【大型2種免許保有者の約84.3%が50代以上（警察庁2023年版統計より）】
② 採算が合わない
近年の物価高騰の影響もあり、車両維持費の高騰、燃料費の上昇など収支を圧迫している。それを受け赤字路線の維持が困難になってきている。（別表に一例）
このような背景があらわながらも市民・利用者の安全・安心な移動を守るために、路線や運行本数の維持継続に向けた事業者の取り組みを応援したいと思います。

一方で、運転士の人材確保のための労働条件改善や、安全運行のための必要経費に合わせ、収益の要である利用運賃の適正価格はいくらなのかについて議論が求められます。現在、神戸市内均一区では2300円、距離制では2100円～5000円超と変動。（ちなみに、かじ幸夫の自宅最寄りバス停から明石駅へは3000円、西神中央駅へは3200円）
物価高は日々の生活に直結する課題ですが、一方で、必要なバス路線を守っていくための適正価格はいくらののかについて真摯に向き合っていく必要があると考えています。

※経費の一例として（神戸市交通局調べ）
路線バス車両1両あたりの生涯維持コストは
約1億3,700万円

【購入時】
車体費：約2,400万円
設備費：約250万円（料金箱、行先表示器など）
その他：約15万円
【年間コスト】
点検費：約170万円
燃料費：約213万円（燃費2.1km/1リッター 121円/1リッター）
修繕費：約83万円（修理費、材料費、油脂費など）
その他：約11万円（自動車重量税、任意保険料、自賠責保険料など）
【点検の種類】
1ヵ月1回（自主点検） 3ヵ月に1回（法定点検）
1年に1回（車検）



かじ視点

